

かんきつ有望系統‘愛媛48号’の概要と特性について

1. はじめに

本県のかんきつ生産は、年間を通じて旬のかんきつを安定的に供給する周年供給を目指しています。周年供給は農家所得の拡大、労働力の分散を図る上で効果的なことから、重点課題の一つとして系統選抜を行ってきました。その結果、中晩柑類ではオリジナル品種として12月が旬の「愛媛果試第28号(紅まどんな)」や、2月が旬の「甘平」などの品種が生み出されています。周年供給体制の更なる強化を図るために、新たな品種には端境期にあたる4月に出荷できる品種が求められています。

2. 育成経過

愛媛48号は、平成17年に‘愛媛果試第28号’を種子親、‘甘平’を花粉親として交配し(図1)、得られた実生の高接ぎを、平成20年4月に行いました。その後平成22年に初結実し、平成27年までの調査に基づき、番号を付与しました。



図1 愛媛48号の交配組み合わせ

3. 品種概要

愛媛48号の樹姿は、直立型と開張型の中間程度となります。樹勢は良好でトゲはありますが、樹が落ち着けば少なくなると思われます。果実の肥大の推移は図2上のおりで、果実の大きさは約250g、果形指数は106程度で種子の無い果実となります。

果実品質について、糖度(Brix)は成熟期の3月上旬に13~15度まで上昇し、樹上におくほど増加します(図2下)。クエン酸含量は2月下旬~3月上旬に1.0g/100ml程度になりますが、その後は横ばい状態となり、味ボケしにくい性質です。これらの性質から、4月頃まで果実を樹上

で実らせておくことにより、糖度が高く酸味もほどよい良好な食味となります。また、果皮の剥皮性はやや良で、赤みのある橙色(写真1)で外観も美しい系統であることから、特に紅色のかんきつが少なくなる3月下旬~4月に、高い商品価値が期待される系統です。



写真1 愛媛48号の外観

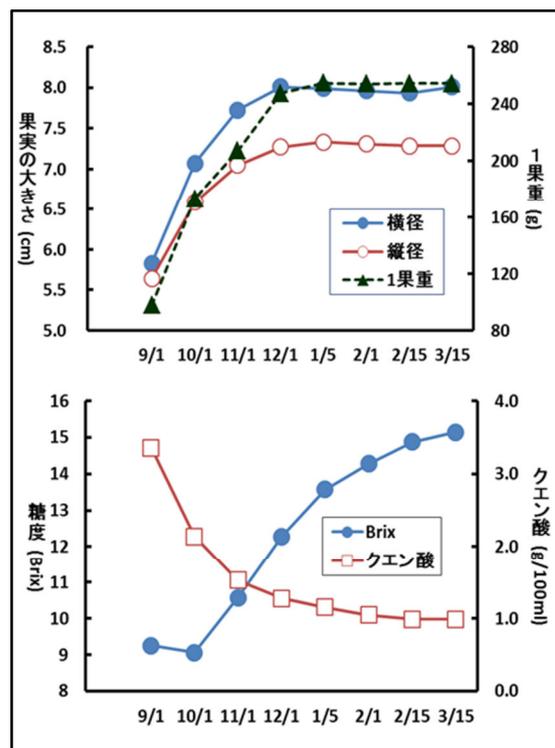


図2 愛媛48号の生育状況(H28-29年平均)

4. 今後の予定

現在、愛媛48号は現地試験を実施中であり、2019年に品種登録を出願する予定です。その後、ウイルスフリー苗を増殖し、早急に産地化を図る体制を整備することとしています。

(育種栽培室 主任研究員 岡本 充智)